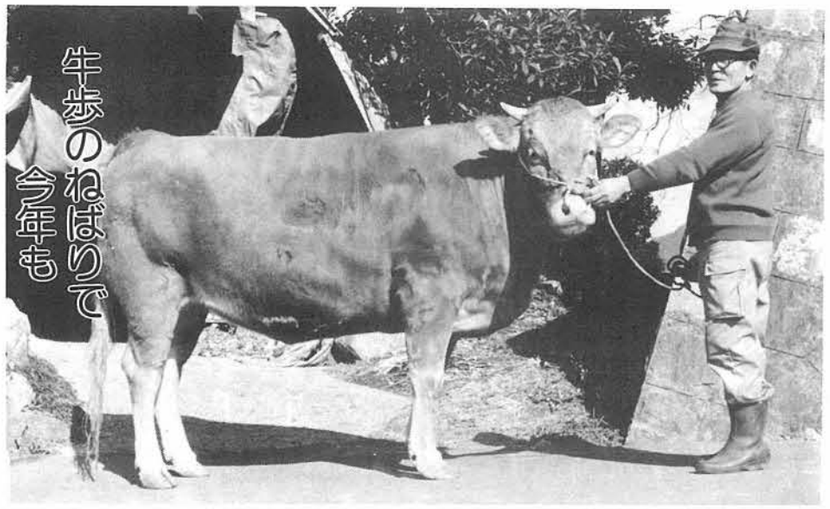


津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表3111）
印刷所　旭印刷
電話（水俣）③4101番

冬の旅

町長　六車孝吉

数年前、全国士改連の大会が北海道で開催された。大会後北海道の各地を廻ったが、豊な緑を見馴れた目には、荒涼たる景色としか映らなかった。網走刑務所は最近近代的施設に改築されたが、何という訳か、全国から毎年沢山の人が見にくると云う、多分「網走番外地」とか、この刑務所を舞台にして小説が書かれたからだろうという、如何に立派でも所詮刑務所は善人に用の無い所である。バスの窓から高い塀を見ながら、ここで服役する時の下検分にくるのではないかと思ったら急に可笑しくなってきた。

北海道の土産と言えば先づ鮭をくわえた木彫りの熊が一番目につく、どこの店に行っても大小の差はあるが同型の熊の木彫りが並んでいる。店内を一巡すると、若い女の店員が、しっこく買えと云う、あんまりうるさいので、「此処の熊は皆左を向いているではないか、こんな馬鹿げた物は買わん」と言ったら、一瞬唖を衝かれたのか急に黙り込んだ。やがて三・四人の同僚に、あのお客さんは此処の熊は全部左向きだから買わないと言った、と話しているのを後に聞きながら店を出た。最初に御手本を彫った人は上手であったろう、然し皆左向きに彫る人真似は一顧の価値もない。

翌年山形県の天童市に行った。ここは将棋の駒で有名である。ホテルの売店にも沢山並べてあって、駒の一組が十万円・二十万円と云うのもざらである。戦後は木工関係の研究開発に力を入れ、斬新なデザインと機能的な製品で全国に名声を博している。長い伝統に培かわれた将棋の駒造りの技術が生かされたものである。ホテルの売店で土産物を物色していると、紫檀の裏が並べてあってよく見ると「紫丹」と書いてある。ここで又例によって一言居士の癖が出た、「お嬢さん、お宅の紫檀の檀は、安木丹の丹と書いてありますね」と言って部屋に戻った。翌朝出発前に売店を覗いたら「紫檀」と改めてあった。

シューベルトが作曲したヴィルヘルム・ミュラーの詩「冬の旅」は誰でもよく知っている。この中の「菩提樹」は特に有名であって、原語で、或は近藤朔風氏訳の歌詞で多くの人が歌ってきた、「泉にそいて茂る菩提樹　慕いゆきてはうまし夢みつ…」　レコードから流れ出るゲルハルト・フォッシュの綺麗なバリトンの声が、今も響いてくる様だ。この詩に出てくる菩提樹と言えば、我々日本人はすぐ仏教との関係を思い浮べる。菩提とは（梵Bodhiの音訳、道・知・覚と訳す）仏語①世俗の迷いを離れ、煩悩を断って得られたさとりの知恵②さとりを開いて涅槃に至ること…等と云う意味で、菩提樹は①植物「てんじくぼだいじゅ（天竺菩提樹）」のこと②シナノキ科の落葉高木、中国原産で……中略…シューベルトの歌曲で知られる樹は同属の別種のリンデンバウム③仏語。禅宗でさとりをいう（小学館　国語大辞典）と書いてあっても何となく腑に落ちなかったが、先達「NHKブックス」の「ヨーロッパの森から」を読んでやっと納得がいった。ドイツ人にとって菩提樹は、愛と憧れとやさしさのシンボルであるとのこと、ドイツの民間習俗の立場から書かれた植物や動物の話は誠に興味深い。人間幾つになっても勉強不足で知らないことが山程ある。明日も又せっせと読書に励みたいと思う。

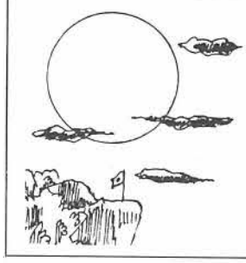
一言

「一年の計は元旦にあり」

元旦の朝、ここ数年毎年この言葉を確かめる。思う事、望む事は毎年違っていても、心意気だけは同じ、今年こそは、今年こそはと。幼ない頃、この元旦の朝に、夢を、希望を一気に唱える。そうすれば不思議にかなうような気がして。今思えば、幼ない頃の夢や希望は、ほとんどが到底かなえられないようなもの。それでもあの頃は、かなえられた時の事を思い、心をうきうきさせて一生懸命に祈った。成人した今、幼ない頃の夢や希望とは、かけ離れた事を思う。でも気持ちは同じ。うきうきして、神様を信じたくて。この新鮮さが必要なのかもしれない、今の私達には。心に新鮮さがなくなったら、心を童心にかえせなくなったら、あまりにも淋しい、人間の固まりになってしまう様に思える。

ゆとりを持ちたい、心に。そうすれば、自然にいろんなものの新鮮さを、発見できる。そして、いつまでも、キラキラと心から輝く人間でありたい。元旦の朝、こう私は思う。

（N）



大健闘 中学生2位 一般総合3位

第35回熊日三太郎駅伝競走大会

町民の誰もが、今年も二位には間違いなく走って来ると信じていた。…それを裏づけるように39キロの区間で本町の沿道での応援が一番多かった。

しかし、本町選手団のエース、新立芳郎君がスタート直前になり腰痛と右足のケイレンのため、やむなく欠場するというハプニングが生じてしまった。

鶴野賢二監督以下関係者は、今年は二ヶ月前に町長出席の基に結団式を行い、合同練習の走り込みも十分なので、優勝も夢ではないと確信をもっていた。

一区を一位で走る実力をもつ、新立君が、集団でスタートした選手達を横目で見ながら…

〝何の為に、今まで一年間も練習したんでしょうね〟とポツリと言った。足をさすってやっている、マネージャーも、毎晩のように車で伴走してやっただけに、残念でたまらないといった表情であった。

監督は選手達の動揺があってはダメだとの判断で、このハプニングを各区間の選手達に伝え激を飛ばすよう指示した。

これを受けた、A・B両チームの選手達はさらに奮起し、各区間で驚異の盛り返しを見せ、一般15チーム（六市町）中、総合三位の入賞を果した。

中学生は11チーム中、一位田浦中と12秒の僅差で第二位の見事な成績を残した。

なお、4区の宮嶋弘行選手が区間新（30分41秒）で区間賞を獲得また、福田必(ひつ)選手が「10年連続出場功労者」として表彰された。





桜戸地区　初の正月駅伝大会

NHKの天気予報とは裏腹に、今年も、すばらしい初陽を迎えた元旦に桜戸地区と内野地区では正月駅伝大会が開催された。

中でも、桜戸地区は今回が初めての駅伝大会が午前11時、総合グラウンドに幼い子供から老人まで約百名が集い、新年の挨拶を交わした後、隣保班9チームが7区間のコースで実施された。

大人の参加者は、子供達に負けまいとハッスルしながら一生懸命に頑張っていた。

一方、内野地区では午前中に、恒例の駅伝大会、午後からゲートボール大会と新しい軽スポーツ、グラウンドゴルフ大会の二種目が千代塚で開催された。

両地区とも、元旦初日から親睦を深め合った事に満足していた。

ルールが簡単「グラウンドゴルフ」

去る、一月六日（日）小津奈木地区では、総合グラウンドにおいて〝グラウンドゴルフ講習会〟を自主開催された。

世話役は坂口区長と永松体育部長さんである。

天気に恵まれた当日は、芝生の上でなごやかな雰囲気の中でホールインワンに挑戦、ルールが簡単なので誰でも直ぐプレーできるところが魅力とあって、参加者の中から「ゲートボール」もおもしろかばってん「グラウンドゴルフ」がいっだんおもしろかバイ！と好評だった。

〝グラウンドゴルフ〟の用具を無料貸出し中です。
希望者はBGへどうぞ！

おしらせ

B&G海洋センターでは、来る2月9日～10日の二日間開催される、**津奈木町産業祭**において、B&Gの各種スポーツウエアーを始め、スポーツバッグ等を低廉な価格で販売しますのでお知らせいたします。

なお、産業祭終了後も年間販売致しますのでご利用下さい。

―津奈木海洋センター購売部―

県立江津高校で通信教育はいかが？

毎日通学できない人のために開いた課程で普通科だけ。入試なし

1　年に二十回ほど日曜または月曜日に登校して授業、年間各教科科十回のレポート、教科書学習書NHK通信高校講座を利用して勉強、それを学校に提出して添削を受ける。試験は年三回

2　一年次の教科　国語、現代社会、数学、理科、保健体育、英語

3　諸経費年額　授業料二千二百円生徒会費その他九千円～一万円

4　受付期間　六十年二月二十日から三月二十五日まで

詳細は熊本市出水四丁目県立江津高校まで問い合わせてください。

あなたも定時制高校で学びませんか
昭和60年度
水俣高校定時制入学案内



願書受付　2月8日(㈮)～2月15日(㈮)
学力検査期日　3月12日(㈫)国語、理科、英語
13日(㈬)社会、数学
応募資格　年齢に制限はありません。
中学校卒業および卒業見込みの人
（衛生看護科は水俣市芦北郡医師会立准看護高等専修学校と技能連携）
募集定員　商業科40名、衛生看護科40名
＊商業科においては、定員に満たない場合は、二次募集を実施します。
授業　午後5：40～9：05
商業科　毎日登校（月～土）
衛生看護課　週に3～4日登校
特典　高校卒業資格取得
教科書交付（無償）
補食給食　（無償）
修学奨励金の貸与等　有り
＊志願手続き等問い合せ先
水俣市南福寺6－1
水俣高等学校　定時制
TEL09666 ③ 1261



成人おめでとう「聖なる灯に将来の大成を誓った若者」

今年も普段着による成人式が、新春の三日改善センターで開催されました。対象者は百参名で八十三名出席、六車町長の挨拶、山本県議会議員等の祝辞、そして浜田良彦君が成人者を代表して答辞を述べる。その後スライドによる「ふる里紹介」等で一部終了、二部は、青年団主催のキャンドルサービス方式による「成人の集い」が行われた。小・中学校又高校まで永い間苦楽を共にした親しい心のつながりをもつ仲間が、このようにして集まることは二度とない。久し振りにふれ合い、かたり合ってすごした仲間、この日のことはいつまでも忘れる事の出来ない思いでとしてのこることでしょう。成人者の皆さん、皆さんをキャンドルの火にたとえると、皆さんは、火をつけた一本のローソクです。どうか永い人生を最後まで燃え続けて健康に注意されローソクの火が最後まで、よく燃えるように努力され、自らが燃えるばかりでなく他の人も照らしてやって下さい。なお成人の集いは午後四時三〇分ごろ終了、それぞれお互いに名残りの握手をかわしながら去って行った。今日の思い出を胸に秘めて。







無人販売所を盛り立てよう感謝の心で



正しい、美しい心、思いやり、感謝の気持で買いましょう。誰もいないのですから、しようと思えばどんなことでもできます。無人販売所は自分の心の磨き場所です。良心の実行所です。

津奈木の人に悪人なしと自らほこり、他も津奈木の人は孝女千代さんのようにりっぱな人ばかりと思うております。

市場のねだんですから、どこよりも安く買えます。水俣や佐敷まで行かずに新鮮なものが安く買えるのだから、これよりありがたいことはありません。

売る方も市場にゆかなくてすみ、口銭も出さなくてよく、少ないものまで金になるのですからこれもありがたいことです。

買う人も、売る人も感謝の心でいけば、必ず無人販売所は永く続くと思います。これがやがて産業の振興にもつながりましょう。

○場所は農協の前
○野菜類、漬物（大根、葉菜類）ソバ粉、豆類、椎茸、漬梅、ミカン、マッシュルームなどなど、
○農協婦人部活動の一事業です。

町誌こぼれ話

泰山鳴動してねずみ二匹 (二)

農中三澄

二人はいろ〳〵と指示や注意を受け、翌九日朝八ッ時(午前二時)覚悟を新にして日州に向った。途中人吉で出判の手続きに手間取り、やむなく一日滞在したが、めざす日州表飫肥城下に到着したのは二月十二日昼八ッ時（午後二時頃）であった。その間四日、ただしその中一日は人吉に足止めされたから、ほんとうに歩いたのは三日。行程四十八里。一日平均十九里。粁にして約七十六粁。現代の頭では理解できない健脚である。

飫肥城下は、想像とはうらはらに、全く平穏無事である。六時頃まで城下を巡って情況を視察した。

二人はその翌日十三日、さっそく外浦の問屋武兵衛所へ行った。

武兵衛は、

「数百艘の唐船漂着？そんなことはありません。今年の正月唐船の商い船二艘が、前後してこの海岸に漂着し、米・水・薪等を乞い求めたことがございます。

話しというのはそのことでございましょう。いやもう藩の役人様も、異国の船が来たということで、一時は大騒ぎなさいましたが、今申し上げたようなことでございます。

精しいことは私もよくわかりません。幸いこの浦の地頭稲津喜左衛門様をよく存じ上げておりますので、訳をお話して、事情をお聞かせ下さいますようお頼みしてみましょう。」

と、言ってくれた。稲津喜左衛門もまことに親切な人で、今度の事件を文書に誌め、精しく教えてくれた。

と教えてくれた。

が、一向に要領を得ない。旅籠の主人に聞いてみると

「そのことだったら、ここから南へ四里程行くと外浦というところがございます。そこでおこったことですから、そこの問屋武兵衛にお尋ねになってごらんなさい。」

女子青年団員紹介



浜田弘子（平国下）

二十年の歳月は早いもので、今年の春成人を迎える事となりました。

高校卒業後、水光社に勤め、四月から、三年目になります。

明るくハッキリした性格で、グズグズしているのが嫌いです。

今後は、一人の大人としての自覚を持って二十代を迎えたいと思います。

酒のおともにふる里の味を

津奈木漁業協同組合長理事　浜田安光



「津奈木名産」タチ、グチみりん干しをどうぞ

漁協婦人部では、従来大量に水揚げされても安くて氷代にもならなかった太刀、グチの小魚をなんとか高く売る方法はないものかとその加工技術を検討していましたが、折りしも熊本県知事提唱の一村一品運動が始まりましたので、これに呼応して、婦人部の手で附加価値を高め、津奈木名産として売り出そうと昨年夏より加工販売を開始し「これはうまい」と皆さん方の御高評を頂いて居ります。お土産に、酒のお友に御利用下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

楽しかったモチつき！



〝エイ〟じょうずでしょう

幼稚園、保育園で毎年実施している「モチつき」がPTAの応援をうけ楽しく行なわれ、出来上がったモチをおいしく食べていた。

肥後狂句

堀双岳選

着順
着膨れて、それじゃ仕事もされんばい　分っとる　勉強勉強で言ィなすな

着膨れて　品も色気も無ァ女子　分っとる　しちくど言うなせからしか

着膨れて　つッこけらしたが起きらん　分っとる　入試は落第するばかり

着膨れて　中身のアバラ目に立たん　分っとる　口には出せん腹の内

着膨れて　今月腹と間違ゆる　分っとる　ちゃんと顔に書ァてある



鳥居雲波　川村静子　堀双岳

短歌

小嶋正弘選

次の笠
差し当り・念のため・各笠二句計四句、二月二十日迄、公民館へ。

特選

ささやかなわれの奢りか初成りの青きレモンを湯舟に浮かす　寺本ツルヲ

しんしんと夜の更くるまでペンとれば友なつかしき秋の夜かな　佐々木しずえ

友の住む波野が原は果もなき芒の穂波想いていたり　佐々木しずえ

老いもまたたのしからずや悠々と歌詠み字を書き気の向くままに　福田ヤエ子

青草のしげれる土手のあちこちにくれない染めて彼岸花咲く　鳥居保

嫁ぎきて苦楽の道も夢と過ぎはや還暦の齢となりけり　福田ヤエ子

暮れなずむ島の狭間を縫うごとく船は尾を引き艘の下ゆく　片桐真代

朝まだき満月はいまだ輝きて明けゆくほどにうすれてゆきぬ　片桐真代

とどかざれば諦めたりし苦瓜の赤き熟水実を見上げていたり　西滋子

コスモスの花の波間をゆられゆく修学旅行のバスに手を振る　白浜美和子

むしろ干の米がうまいと聞きたれば乾燥機はあれど薙干する　野田浦子

母を待ちて涙しいたる幼児は壁にもたれて眠りいにけり　柳迫ミツエ

幼孫と遠揚花火に興じたり月かげ清き秋の夕に　柳迫いづも

無頼なる吾に添い来て年老いぬ捧げし妻の半白の髪　小嶋正弘

気負い立つ心しずめに撫でてゆけ役場正面ブロンズの裸婦　小嶋正弘